水産研究・教育機構 機関リポジトリ
FRA Japan Fisheries Research and Education Agency Institutional Repository

国際サーモン年 International Year of the Salmon （IYS） をご存知ですか？

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2024-07-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 俊平 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009756

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.

トピックス

国際サーモン年　International Year of the Salmon

さけます資源研究部　資源保全グループ長　　佐 藤　俊 平

2019年が「国際サーモン年」に定められ、その開催を周知するイベントが国内外で開催されています。

北太平洋におけるさけ・ます類の資源量はこの10年間で非常に高い値を示しており、2008年以降の平均商業漁獲量は奇数年で105.4万トン、偶数年で85.9万トンとなっています。一方、資源量の経年変化を見ると、奇数年・偶数年ともに徐々に減少傾向が続いています。また、ロシアやアラスカといった、太平洋さけ・ます類の分布の北側に位置する地域では高い資源量を示しているのに対し、日本やカナダ、米国のワシントン州以南といった分布の南側に位置する地域では資源量が低迷するなど、地域間の格差が見られるようになってきました。さらに、地球温暖化に代表される気候変動が様々な形でさけ・ます類に影響を及ぼしている可能性も指摘されています。

このような中、さけ・ます類と我々人類との関わりをもう一度見直し、将来にわたりさけ・ます資源を持続的に利用するため、さけ・ます類に関する様々な調査・研究活動を国際的な共同研究という形で推進していく必要があるという機運が高まりました。そこで、さけ・ます類に関する太平洋側の国際機関である北太平洋溯河性魚類委員会（NPAFC）と大西洋側の国際機関である北大西洋サケ保全機構（NASCO）が共同し、2019年を「国際サーモン年（International Year of the Salmon, IYS）」に制定しました。IYSの基本コンセプトは「変わりゆく世界におけるサーモンと人類（Salmon and People in a Changing World）」で、この下に6つの研究テーマを設定し、それぞれについて国際的な協力をしながら調査・研究を推し進めています。一方で、IYSではさけ・ます類が持つ多面的価値（例えば経済的・社会的・文化的価値）をより多くの人たちに知ってもらうためのアウトリーチ活動も活発に行っています。ここでは、2018年10月にカナダで行われたIYSオープニングイベントおよび日本で行われている関連行事について簡単にご紹介します。

「国際サーモン年」オープニングイベント

IYSオープニングイベントは、2018年10月11日にカナダ・バンクーバー市の Jack Poole Plaza で開催されました。ここには2010年に行われたバンクーバー冬季オリンピックで使用された聖火台がモニュメントとして置いてあり、観光スポットの一つになっています。当日は少し肌寒かったものの、この時期のバンクーバーとしては珍しく快晴となり、NPAFC・NASCOの関係者、政府関係者、研究者、NGO、取材メディアなど、各方面から150名ほどの参加者がありました。イベントはまず、カナダ先住民によるスピーチおよび先住民伝統の歌の披露から始まりました（写真1）。続いてPacific Salmon Foundation（太平洋サケ基金）のBrian Riddell博士から太平洋さけ・ます類が置かれている現状と課題に関する報告が、IYS事務局のMark Saunders氏からIYSの概要についての説明が、それぞれ行われました（表紙写真）。この中で、2019年2～3月にアラスカ湾で行われる大規模な越冬期調査の概要が紹介されました。これは、現在もその詳細について不明な点が多い越冬期のさけ・ます類について、NPAFC加盟国の研究者たちがロシアの調査船に乗り込み、アラスカ湾で漁獲調査をはじめとする様々な調査・研究活動を実施するもので、国際共同研究を推進するIYSの象徴的な事業となります。

次いで、カナダ・米国・韓国・日本からIYSの開催を歓迎するスピーチが行われました。カナダからは地元ブリティッシュ・コロンビア州の John Horgan 州知事が自ら出席されており、IYSの成功へ向けた強い意思が感じられました。

写真1 カナダ先住民による伝統的な歌の披露

写真2 ランチレセプションで振る舞われた天然サケの料理